

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-25349

(P2001-25349A)

(43)公開日 平成13年1月30日(2001.1.30)

(51)Int.Cl.⁷

A 01 M 25/00

識別記号

F I

A 01 M 25/00

テープコード(参考)

Z 2 B 1 2 1

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全4頁)

(21)出願番号 特願平11-199029

(71)出願人 599098725

和田 貞夫

富山県東礪波郡城端町信末451

(22)出願日 平成11年7月13日(1999.7.13)

(72)発明者 和田 貞夫

富山県東礪波郡城端町信末451

(74)代理人 100090206

弁理士 宮田 信道

Fターム(参考) 2B121 AA16 CC06 CC16 EA24 EA25

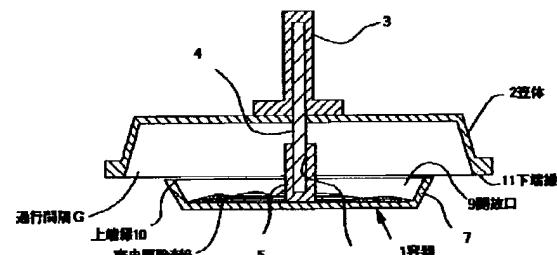
FA01

(54)【発明の名称】害虫駆除剤の雨避け具

(57)【要約】

【課題】本発明は、雨天時においても害虫駆除剤の効力が遺憾なく發揮し、植物へのナメクジ、カタツムリなどの害虫の寄生を確実に防ぐことが可能な害虫駆除剤の雨避け具を提供することにある。

【解決手段】上方側に開放口9を有する害虫駆除剤6を入れる容器1と、該容器1に着脱自在に備えられる笠体2と、から構成され、該笠体2で容器1の開放口9全域を上方から覆うと共に、容器1と笠体2との間に害虫の通行間隙Gを形成したことを特徴とする。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】上方側に開放口(9)を有する害虫駆除剤(6)を入れる容器(1)と、該容器(1)に着脱自在に備えられる笠体(2)と、から構成され、該笠体(2)で容器(1)の開放口(9)全域を上方から覆うと共に、容器(1)と笠体(2)との間に害虫の通行間隙(G)を形成したことを特徴とする害虫駆除剤の雨避け具。

【請求項2】前記通行間隙(G)は、笠体(2)の外周縁が容器(1)の開放口(9)よりも外側に張出していると共に、笠体(2)の下端縁(11)を容器(1)の上端縁(10)に対して略一致位置若しくは下方位置に配置してあることを特徴とする請求項1記載の害虫駆除剤の雨避け具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、植物に寄生するナメクジやカタツムリなどを駆除する害虫駆除剤の雨避け具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】植物を育成栽培する際、特に雨天時においては、植木鉢や花壇に植えられた植物にナメクジやカタツムリなどの害虫が寄生し、植物の葉や茎を食べる問題があった。このことから植物の栽培業者や家庭園芸の愛好家の間では、植木鉢や花壇の土壌に誘引作用を有する粒状あるいは粉末状の害虫駆除剤を散布し、害虫による植物への被害を防ぐ方法が採られていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述のような害虫駆除剤は、害虫に対しての殺傷効果は高いものの、ナメクジやカタツムリが特に発生しやすい雨天時においては、土壌に散布した害虫駆除剤が雨水に濡れて効力が半減し、害虫の効果的な駆除が行えなくなる問題点があった。

【0004】本発明は、雨天時においても害虫駆除剤の効力が遺憾なく発揮し、植物へのナメクジ、カタツムリなどの害虫の寄生を確実に防ぐことが可能な害虫駆除剤の雨避け具を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明のうち請求項1記載の発明は、上方側に開放口を有する害虫駆除剤を入れる容器と、該容器に着脱自在に備えられる笠体と、から構成され、該笠体で容器の開放口全域を上方から覆うと共に、容器と笠体との間に害虫の通行間隙を形成したことを特徴とする。

【0006】ここで、通行間隙とは、容器に笠体を備えても、該容器内へ害虫が侵入できるものであればよく、具体的な構成としては、容器と笠体との間に支持棒を介在し、上下に間隔を形成したものや、あるいは、容器の外周縁に沿って間隔をあけて複数の突出片を設け、各突

2

出片の上端に笠体を載置したものなどが挙げられる。

【0007】このように形成すると、害虫駆除剤を収容する容器の上方側が笠体により覆われるから、開放口が遮られて容器内に雨水が入り込むことがない。さらに、容器と笠体によって形成された通行間隙により、害虫駆除剤の誘引作用で引き寄せられた害虫を容器内に入り込ませることが可能となるから、雨天時においても害虫駆除剤が濡れずに該害虫駆除剤としての効力を充分に発揮して、害虫を確実に駆除することが可能となる。

10 【0008】また、請求項1のように形成しても害虫駆除剤を入れた容器内への雨水の浸入を防ぐことができるが、請求項2記載の発明のように、前記通行間隙は、笠体の外周縁が容器の開放口よりも外側に張出していると共に、笠体の下端縁を容器の上端縁に対して略一致位置若しくは下方位置に配置するようにしておけば、例えば、笠体の側面側から吹き込むような雨水に対しても、容器内への浸入を適確に防ぐことができ、害虫駆除剤の効果を一層確実に発揮することが可能となる。

【0009】

20 【発明の実施の形態】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の実施形態を図1乃至図5に基づいて説明する。本実施形態の害虫駆除剤の雨避け具は、内部に害虫駆除剤6を収容すると共に、底部中央に嵌合穴8を有する筒型の保持部5を備える容器1と、前記嵌合穴8に差込可能な支持棒4を下方に向けて突出するツマミ3付きの笠体2と、からなっている。

【0010】容器1は、円形をなす底部外周縁の全周に亘り、円筒状の周壁7が立設するものであり、この容器1の内部には、粉末状または粒状の害虫駆除剤6が収容される。また、容器1の底部上面の中央には、嵌合穴8を備える円筒状の保持部5が設けてあり、該嵌合穴8には、前記笠体2の下面中央から下方に垂下する支持棒4が挿入される。尚、前記支持棒4は、容器1側に設けることも可能であり、この場合には、上記実施形態のものとは反対に、笠体2側に支持棒4と対応する保持部5を設けている。

【0011】笠体2は、前記容器1の開放口9よりも外周縁が外側に張出されて形成されるものである。該笠体2の上面側には、上方側に突出する円柱状のツマミ3が備えてあり、該ツマミ3により笠体2を容器1から着脱することが容易になっている。一方、笠体2の下面側には、該ツマミ3に嵌合保持されると共に下方側に垂下している支持棒4が設けてあり、この支持棒4の下端部を前記容器1の保持部5の嵌合穴8に挿入することで、笠体2が容器1の開放口9を遮る状態で保持部5により支

持される。

【0012】通行間隙Gは、図3に示すように、笠体2の外周縁を容器1の開放口9よりも外側に張出したものを前記支持棒4と保持部5を介在して備えることで、容器1と笠体2との形成幅の違いにより形成されるリング

3

状をなす間隔である。さらに、容器1の上端縁10と笠体2の下端縁11は、略一致する高さ位置で配置されており、このように通行間隙Gを形成することにより、容器1に笠体2を備えた場合にも、害虫駆除剤6によって誘引された害虫が、前記通行間隙Gを通って容器1内に入り込むことになり、笠体2を備えても容器1内で確実に害虫が駆除されることとなる。

【0013】次に、本害虫駆除剤の雨避け具の実際の使用を以下に説明する。

(a) まず、植物を栽培する植木鉢や花壇の土壌上に容器1を載置する。

(b) 次いで、前記容器1の中に害虫駆除剤6を入れる。

(c) さらに、容器1の保持部4に笠体2の支持棒4を挿入し、容器1に笠体2を備える。

このような手順を経ることにより、植物に寄生するナメクジやカタツムリなどの害虫が、害虫駆除剤6の有する誘引作用により容器1内に向けて引き寄せられ、さらに、通行間隙Gを通って容器1内の害虫駆除剤6を食すことになるから、雨天時においても害虫駆除剤6が漏れることなく、さらに、容器1内で確実に害虫を駆除することが可能となる。

【0014】尚、前記容器1と笠体2の素材は、土壤浸蝕や水分に対して安定を保つ素材であればよく、具体的には、合成樹脂やアルミニウム合金で形成することが望ましい。また、前記支持棒4は、害虫の通行間隙Gを形成した状態で、笠体2により容器1の開放口9を覆い、容器1内部への雨水や水の浸入を防ぐものであればよく、上述の実施形態に限定されるものではない。このことから、例えば、図6のように、容器1の外周縁に沿って、間隔をあけて複数の突出片4aを設け、当該各突出片4aの上端部に笠体2を載置したものでもよく、この

10

20

30

4

場合においても、笠体2と各突出片4aに囲まれた部分により害虫の通行間隙Gが形成されるから、害虫の容器1内への侵入を妨げることなく、該容器1内への雨避けが可能となる。

【0015】

【発明の効果】本発明の害虫駆除剤の雨避け具を使用すれば、雨天時においても害虫駆除剤が漏れることなく、害虫駆除剤の本来の効能を遺憾なく發揮し、カタツムリやナメクジなどの害虫から植物を確実に保護することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の一実施形態を示す側面図である。

【図2】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の一実施形態を示す平面図である。

【図3】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の一実施形態を示す底面図である。

【図4】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の一実施形態の使用を示す説明図である。

【図5】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の一実施形態を示す縦断面図である。

【図6】本発明の害虫駆除剤の雨避け具の他の実施形態を示す縦断面図である。

【符号の説明】

1 容器

2 笠体

4, 4a 支持手段(支持棒、突出片)

6 害虫駆除剤

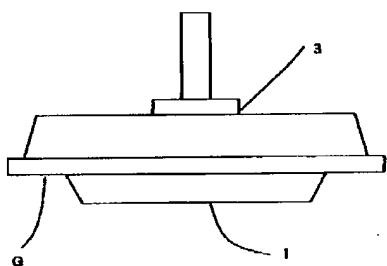
9 開放口

10 上端縁

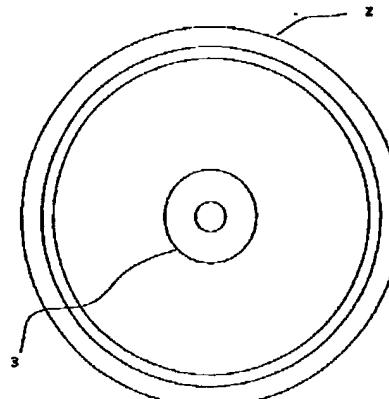
11 下端縁

G 通行間隙

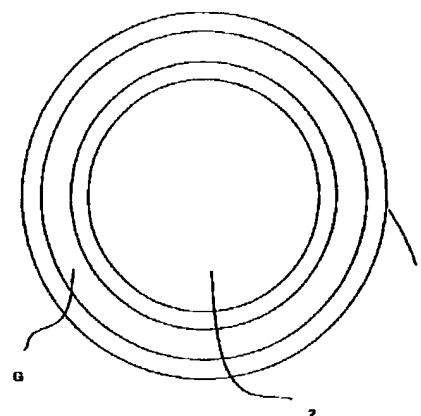
【図1】



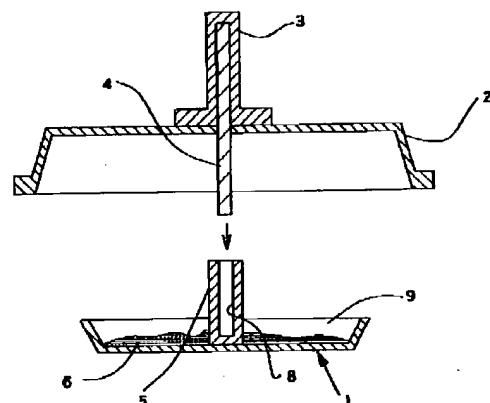
【図2】



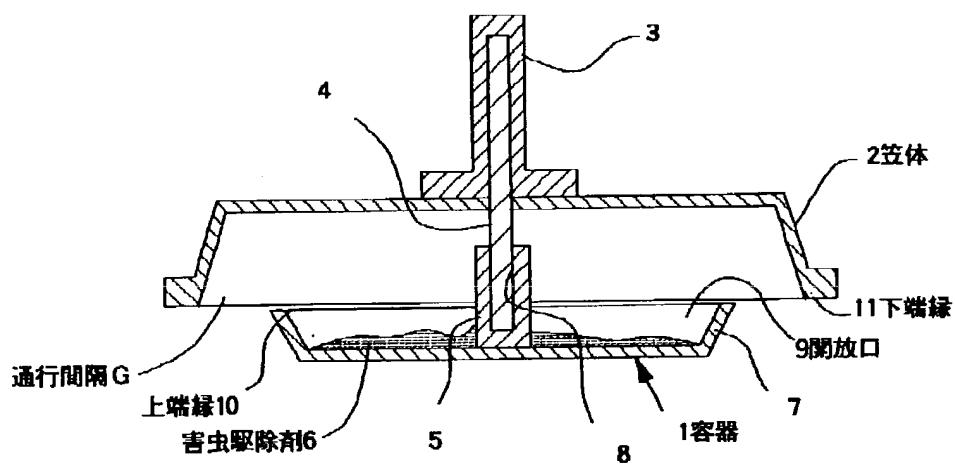
【図3】



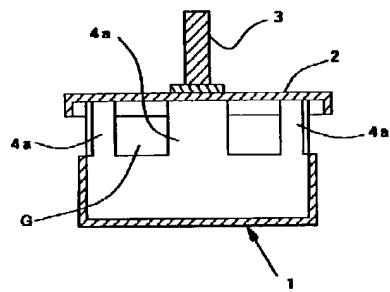
【図4】



【図5】



【図6】



PAT-NO: JP02001025349A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001025349 A
TITLE: RAIN-AVOIDING TOOL FOR NOXIOUS
MOLLUSK-EXTERMINATING
AGENT
PUBN-DATE: January 30, 2001

INVENTOR-INFORMATION:
NAME COUNTRY
WADA, SADAO N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
WADA SADAO N/A

APPL-NO: JP11199029
APPL-DATE: July 13, 1999

INT-CL (IPC): A01M025/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a rain-avoiding tool for a noxious .
mollusk-exterminating agent, capable of exhibiting the effect of the mollusk
extermination thoroughly even in a rainy weather, and capable of surely preventing the parasitism of snails, slugs, and the like, to plants.

SOLUTION: This rain-preventing tool is constituted with a container 1 for filling a noxious mollusk-exterminating agent 6 having an opening port 9 at its upper side, an umbrella body 2 capable of equipping to the container 1 freely

demountably, and is characterized by covering the opening port 9 of the container 1 from its upper direction with the umbrella body 2, and also forming a passing gap G for the noxious mollusks between the container 1 and umbrella body 2.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO